

募 集 要 項

氏 名：松下真也	研究室：第 1 研究室棟 802
専 攻 分 野：簿記・会計制度論	
演習テーマ：会計理論の基礎と応用	E-mail：smatsush@cc.kyoto-su.ac.jp

演習内容・主なテキスト

この演習では、会計情報作成の基礎である簿記や財務諸表作成の基礎である財務会計論を学習し、実社会における諸問題を発見し、解決する能力を修得します。具体的には、簿記・財務会計に関するトピックについて、データ収集の方法、資料のまとめ方、プレゼンテーションの方法およびディスカッションの方法を修得します。

演習 1・2 の使用テキスト：新田忠誓 他著『会計学・簿記入門（最新版）』白桃書房。

<演習 1>

簿記理論と財務会計理論の相違を識別することが目標です。期中取引の仕訳は簡単に解けるけど、決算整理仕訳は考えないと解けないと感じたことはありませんか？そう感じるののは、簿記の理論と財務会計の理論が異なるからです。今後、より高度な会計学の知識を吸収する基礎固めをするために、テキストを用いたグループワークを行い、簿記と財務会計の理論を学びます。

<演習 2>

財務諸表作成の論理を修得することが目標です。どのような会計処理を行うかは、どのような財務諸表の作成を意図するかによって決まります。そこで、上記テキストを用いて、財務諸表の性質を分析し、会計処理を行う際の思考パターンを学びます。

<演習 3>

会計学における現実的課題を検討することが目標です。具体的には、グループごとに、会計制度（収益認識、資産評価、のれんの会計処理など）の分析や、会計数値に基づく予測モデル（株価推定モデルや倒産予測モデル）を用いた分析を行い、どのような問題があるかを学びます。

<演習 4>

演習 3 で取り上げたテーマをベースに、周辺領域の現代的課題に関する研究を行うことが目標です。前半は、ゼミ研究報告大会に向けた資料作成やプレゼンテーションの方法を学びます。後半は、各自が卒業研究として取り上げるテーマ選択を行います。

<演習 5・6>

学士授与にふさわしい専門性とクオリティをもった卒業論文を完成させることが目標です。卒業論文の個別指導を中心に実施し、卒業論文の完成を目指します。過去の卒業論文のテーマとしては、「会計上認識されるのれんと投資家のリスク評価との関係」、「KAM における収益認識に関する開示の調査」および「経済政策や自然災害が企業財務に与えた影響について」があります。

教員からの要望

最初は会計学に全く興味を持っていなかった学生も、3 回生の後半には、会計数値を用いた分析ができるようになっていきます。ですので、入ゼミ段階での会計的知識は不問ですが、自らの興味・関心に応じて、積極的に学習する方がこのゼミに向いていると思います。その上で、下記①～④を承知の上で応募して下さい。

- ①遅刻・欠席は原則として認めません。
- ②演習 4 において、ゼミ研究報告大会で研究発表をします。
- ③多様性を重視する幅広い視野を持つこと。
- ④英語のみ他言語対応が可能です。

履修希望科目

商業簿記Ⅰ，商業簿記Ⅱ

教員の自己紹介

兵庫県神戸市出身，二児の父で，サーフィン（ロングボード）が趣味です。県立神戸商業高校・一橋大学商学部・大学院を経て，2011年から大学教育に従事し，2019年度より本学の経営学部にも所属しています。現在は，帳簿組織が提供する情報の経営管理における有用性，企業の業績指標に関する会計制度に，研究上の関心があります。

ゼミ生からの紹介

松下ゼミは会計理論について研究を行っています。そして、このゼミではゼミ生が学びたいことを学ぶことができる環境が整っています。実際に私たち4期生は春学期に簿記の学習を行いました。複数のグループに分かれ、ゼミ生同士で教え合うことによってグループ全体で知識を定着させました。現在は関心のある分野ごとに分かれて研究を進めています。また、ゼミは全体的に落ち着いた雰囲気、簿記や会計の授業が得意な人から苦手な人まで様々です。会計と聞くと難しいイメージを持ったことがある方も多いかと思いますが、ゼミでの学習を通して知識を身に付けることができるため、簿記や会計に少しでも興味がある方は松下ゼミで学ぶことを強くお勧めします。